

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言

「主と教会に仕えて」

私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをとともに受ける者となるためなのです。(1コリント9:23)

(上田福音自由教会主任牧師、聖書宣教会理事) **鈴木 義明**

これまで、開拓伝道から伝統ある教会まで4つの教会で牧会させていただきました。来年5つ目の教会開拓に導かれています。主の憐れみに感謝し、恵みを数えながら、教えられた事を少しあかしさせていただきます。

1. 問われる召命(神の召命の大切さ)

教会建設の働きは、神の国建設に参加させていただくことです。あらゆる働きは、主の働きで、主が先頭に立ってくださいます。ですから、主の教会建設の働き人は、明確な主の召命なしには、継続した働きは難しく教えられました。

経済的困難、教員会の指導とリーダーシップにおいて、また主のみことばの厳しさを語ることにしても、たましいを愛することにおいても、いつも足りなさを感じてきました。遣わされた地と状況の中で主の御声を聞きながら、自分は牧師としてむいていけるのだろうかとか何度問われたかわかりません。パウロの宣教は困難の連続でした。その中で命がけで主に従い、宣教を続けたその力の根本は、主からの異邦人宣教の召命であったと思います。本当に実感して同感します。

2. みことばの真実を知りそこに生きる(みことばに生きる大切さ)

主のみことばへの信頼を聖書神学舎で叩き込まれたことを本当に感謝しています。病にも倒れました。苦境にも立たされました。その時に支えてくれたのが主のお言葉です。聖句によって自分の働きの方向性も学び取って行くのですが、自分なりに誠実を尽くして積義し、解釈するなかで、主は明確な確信を与えてくださいました。召命を支えるのも主のみことばであり、主の新しい計画を知るのも主の御声たるみことばでした。

神学の世界で紹介される新しい試みや論文が知性豊かな牧師たちの心を揺さぶります。たましいを愛し、漁る者にとって、その宣教の意欲を削ぐような教えに触れることもあります。そのような時に、みことばそのものの積義によって真偽の見極めができるのも神学舎で学んだ恵みです。おられる

ことなく福音に歩めることは非常に重要なことです。

かつて、古都京都で30年間牧会し、新会堂を建設する時に、自治会との地蔵問題で軋轢が起こって、町内から教会が出て行くように攻められた時にも、ネヘミヤ記の講解の説教が、教会を励まし、竣工へと導かれました。主のことばが教会を建て上げて行くことを今更ながら思います。

3. 先輩・友人を見出す謙遜さ(働き人の交わりの大切さ)

教会において感謝することは、牧会上の友人・先輩、神学校の同窓生等を、数多くはないですが、与えられたことです。心励まし、また刺激してくれる良き先輩たちを与えられてきたことは幸いです。特に感謝なことは、台湾人、韓国人、米国人の宣教師・牧会者の親友が与えられて来たことです。それぞれ25年以上のお付き合いです。喜びや悲しみを共有できた友でした。今の働きに大きな助けになっています。謙遜な心は、多くのモデルや友人を他の働き人の中に見いださせると思います。霊的な友との交わりは牧会生活のバランスを与えてくれます。もちろん妻は最高の同労者ですが。

4. 弱さの中に主の力を知る(弱さと向き合うことの大切さ)

教会させていただく時に経験することは、自分自身の限界です。自分が被造物であり罪人であることから来る限界です。そのような時に、パウロの聞いた主の御声を思い出します。IIコリント12章9節(弱さのうちに完全に現れる神の力)です。弱さの前に立つパウロ、彼はその弱さと限界の中に神の恵みの力を見出したのです。

多様化する現代に、福音の奉仕者として自らを見失わず、忠実で永続的な働きを続けていくために、絶えず福音の恵みの祝福の中を歩み続けたいと思います。



聖書神学舎を支えてくださっている諸教会の皆様、この盛夏をいかがお過ごしでしたでしょうか。ここ羽村でも記録的な猛暑、酷暑、炎暑が続き、どうなることかと思いましたが、それでも三夏を経て、猛暑も次第におさまり、今は残暑の厳しくないことを願っております。

今年の夏を熱くしているのは、気象だけではありません。戦後70年を経て、戦後の日本のあり方を大きく左右する、違憲の疑いが強い、安全保障関連法案が国会で審議され、論戦は衆議院から参議院に移りました。また福島における原発事故の反省も不十分なまま、原発再稼働も始まりました。沖縄県の普天間基地移設問題も議論が沸騰しています。どれもこれも最重要課題ですが、このような諸問題に対して福音派諸教会、諸団体ももはや一致して対応できない状況が生まれており、残念なことです。これから地の塩として世の光として、教会がこのような諸問題にいかに対峙して行くのか、私たちの信仰が問われていくように思います。

●夏期研修講座・講習会

夏期研修講座は今年40周年を迎えたこともあり、オランダからライデン大学名誉教授の村岡崇光先生をお招きし、ご専門であるヘブル語、七十人訳ギリシャ語に関する分野から9時間に及ぶ貴重な講義を伺いました。村岡先生は毎回予定の時間をオーバーし、その熱の籠もった講義に参加者一同大きな刺激を受けたことでした。また村岡先生は、最近七十人訳ギリシャ語の辞書を出版されましたが、研修会後に辞書購入の申込が相次いだことは、参加者が講義に魅了されたというだけでなく、原典でみことばを学ぶ意欲を強く持っていることの現れだと思います。七十人訳聖書はマソラ本文理解の補助的役割というだけではなく、七十人訳聖書の研究自体が大きな可能性を持っている分野であることを教えられました。村岡先生は、最近七十人訳ギリシャ語の統語論の文法書も執筆し、現在出版準備中とのことでした。

研修講座の二日目の夜は、日本の戦争責任を巡って「敗戦70年にあたって日本人キリスト教徒として」と題して講演していただきました。村岡先生は、日本の戦争責任を深く自覚する中で、毎年約5週間を日本軍が損害を与えたアジア諸国へ自費でおもむ

き、無償で専門科目を教える働きを続けているとのことでした。これまで訪問してきた中国、韓国、台湾等東アジア諸国で行ってきた謝罪の旅を体験を交えて語っていただきました。連合軍の捕虜だけで1万3000人が犠牲になったタイの有名な泰緬鉄道建設に触れる中で、その死者のリストの下に「We will forgive, but never forget」と記されている碑銘を紹介し、参加者へのメッセージとされました。また村岡先生は、インドネシアで慰安婦とされたオランダ人女性についての書物『折られた花』をオランダ語から日本語に翻訳し出版しています。講演後も参加者とさらに夜中の12時頃まで語り合っていました。そのようなわけで、各地から集った卒業生たちと貴重な三日間を過ごす幸いな研修会でした。

さて、教会音楽夏期講習会も毎年多くの祝福を経験してきました。今年も三十数名の申込者があり、午前中は聖書の学びや講義を中心に、午後は聖歌隊の指導法、歌唱法、声楽、オルガン実習、作曲など実技指導の分科会があり、さらに、夜にはワークショップが開かれ、充実した三日間となりました。講師の一人である遠藤かおる先生は、最近CD「わが光わが救い」を出版されました。乳癌に始まり今は膵臓癌と戦いながら、尚も神学舎でも教鞭を取り続けておられます。どうぞ先生のために引き続き覚えてお祈りください。

●キャラバン伝道

最後になりましたが、今年の夏期キャラバン伝道は、4つの教会で行われました。3つのキャラバン隊が、7月14日からそれぞれ約一週間の予定で、JECA小川キリスト教会（茨城県小美玉市）、岩槻福音自由教会（さいたま市）、高崎キリストチャペル（高崎市）で奉仕し、またそれと入れ替わるように7月21日から最後のキャラバン隊が同盟教団・京都めぐみ教会で奉仕いたしました。夏の炎天下、あるいは台風の豪雨の中、それぞれの奉仕が守られたことを感謝いたします。詳細は3,4頁の報告をご覧ください。これ以外にも、東北の被災地へ自主的にキャラバンに向かったグループもありました。

前期の授業はすでに再開しています。10月8日まで続く前期の授業が守られますようにお祈りください。皆様の祈りとご支援に感謝しつつ。

夏期伝道実習

2015年度のキャラバン伝道は、4チーム12名が、茨城、群馬、埼玉、京都の各地に遣わされました。祈りのうちに覚えてくださった皆様とキャラバンチームの受け入れにご尽力くださった各教会の皆様へ感謝しています。

今年度は、「主にあって互いに励まし合い、建て上げられていく」(Iテサロニケ5:11より)というテーマを掲げ、準備段階からミーティングを大切にしようという心がけて取り組んで参りました。そして、実習期間を迎えて、各教会での交わりと奉仕の機会を通じ、各々が、それぞれの場で教えられ、励まされる経験をしてきました。このように今年度のキャラバン伝道を導いてくださった主を崇めて、ご報告します。

2015年度 キャラバン伝道実行委員長 天野 孝則

小川キリスト教会 (茨城県)

日程：7月14日(火)～19日(日)

渡辺 井作、中西 健彦、三原 識文

高齢化の進む過疎地で、昔からの農家も多く、神社の影響も強い、そんな地域である茨城県小美玉市小川町を中心にトラクト配布をしました。次の家まで何百メートルもある場所もあります。使えそうなのに人のいない家もあり、家人が亡くなれば、継ぐ人のいない家だと聞きました。人口密度が低く、効率的とは言えないトラクト配布。犬に吠えられ、家人には不審そうに見られ、めげてきた時に励ましとなったのは「良いもの」を届けているという確信を心に据えることでした。

水曜日の集会、日曜日の伝道礼拝では、あかし、賛美、説教の奉仕をしました。限られたことしかできない私たちでしたが、教会の皆様からの温かい歓迎に感謝でした。水曜日の夜は、たった一人の求道者のための聖書の学び。しかし一人の魂を追い求める先生ご夫妻の忠実な姿を見させていただきました。また神様は日曜日に二人の newcomer を与えてくださいました。



高崎キリストチャペル (群馬県)

日程：7月14日(火)～20日(月)

天野 孝則、小山 敦史、湯本 赦頼

「あまりにも恵まれたキャラバン」

平日の子ども集会、青年の集い、聖書クラス、バプテスマ準備の学び会、日曜礼拝と伝道集会、そして、軽井沢での二日間にわたる聖書宿泊…。幸いな学びと交わりの輪に入れていただき、ほぼ全ての集会でみことばのご奉仕までさせていただいて、感謝の絶えない一週間でした。ブラザレンの集会である高崎キリストチャペルでは、長老の方々を中心に、集われる兄弟姉妹の御一人御一人が、奉仕と学びに熱心に取り組んでいらっしゃいました。特に、一致をもってみことばに聴き入る集会全体の姿勢に、私たちも大きな励ましをいただきました。

キャラバン隊としてお仕えるために遣わされた私たちでしたが、兄弟姉妹との信仰的語らいの時や、献身者としての歩みをお証しさせていただく機会も与えられ、あまりにも恵まれたキャラバン伝道でした。素晴らしい出会いと学びを備えてくださった主に、祈り支えてくださった皆様に、心から感謝いたします。

岩槻福音自由教会（埼玉県）

日程：7月14日（火）～20日（月）

坂上 瑠津子、清水 勝俊、山谷 寛人

私たちは岩槻福音自由教会に遣わされ、礼拝での説教とあかし、祈祷会での奨励、子ども集会でのおはなし、チラシ配布などをさせていただきました。

開拓中の教会のため、新来会者が与えられるようにとりわけ祈られていましたが、主の不思議な導きと祝福がありました。子ども集会のチラシを小学校の前で配っていたときに、通りかかった中学生の女の子3人が自ら手伝ってくれたのです。きっかけは遊び半分だったのかもしれませんが、後日、教会に来てくれました。そして、その交わりの中で福音が語られ、ともに祈るときが与えられました。子ども集会も盛況で、宣教の主である神のなされることに驚かされたときでした。

また、主が確かに生きて働かれ、ひとりひとりを愛し、豊かに用いてくださることを兄弟姉妹との交わりの中で覚え、大きな励ましを受けました。皆でともに主を喜び、主のなされることに期待し、岩槻の地で祈りを捧げられたことが、最たる恵みでした。



京都めぐみ教会（京都府）

日程：7月20日（月）～27日（月）

新井 智也、野村 啓祐、依藤 慎太郎

初日オリエンテーションで教会の歴史を確認後、近隣の住宅へトラクト配布をしました。2日目は午前と午後にそれぞれ祈祷会が持たれました。夜は教会員の方が美味しい食事を用意してくださり感謝でした。3日目は、防音のために会堂の床下に緩衝材を敷き詰める作業等を通して、牧師の働きの多様性と配慮を学ばさせていただきました。金、土と持たれた「恵みキッズ」では、十字架をテーマにゲーム、工作、クイズ大会や巨大シャボン玉作成、アイスクリームを手作りして楽しい時間を過ごしました。子ども達が罪とイエス・キリストの十字架・復活について真剣に聞く姿が印象的でした。主日礼拝では野村兄のあかしとチームで特別賛美をさせていただきました。礼拝後は教会の方々が食事を持ち寄ってくださり、共に一週間の恵みと感謝を分かち合う時を持ちました。『今、この時』、私たちを導いてくださった主に心から感謝いたします。



《ボランティア募集》

日頃からのお祈りとご支援に加えて、羽村でボランティアをしてくださる方々もあり、感謝しています。現在の具体的な必要は下記の二つですが、他にも特別な賜物や関心をもってお手伝いくださることがあれば是非ご連絡ください。授業日であれば、朝10:05からのチャペルでの礼拝や、12:30からの昼食の交わりにもご参加いただけます。予約をいただければ昼食は提供させていただきます。ご連絡、お問い合わせは電話、FAXまたはウェブサイトの「お問い合わせ」からのメールでお願いします。

《庭と植木の管理》

研修生の係活動とボランティアのご奉仕で良く管理されてきていますが、さらに強力な応援を期待しています。いつでもご都合の良い日にお出かけいただいでご奉仕いただけると感謝です。

《通信発送作業》

研修生全員で作業する聖書宣教会通信発送作業のお手伝いも大変助かっています。(次回は12月8日の予定です。ご奉仕くださる場合は事前にご連絡いただくと助かります。)

.....

聖書神学舎夏期研修講座

「久々に学ぶことの感動に触れて」

吉平 敏行 (日本キリスト教会雲雀ヶ丘伝道所)

7月7日(火)～9日(木)に奥多摩福音の家で開催された第40回夏期研修講座は、ライデン大学名誉教授村岡崇光先生を迎え、参加者70名ほどに及ぶ充実した学びとなりました。ご専門の七十人訳ギリシャ語辞典完成までの研鑽と苦闘を含め、蓄積された知識から流れ出る原語の機微に触れる説き明かし、日本語とヘブル語とを比較しながら言語構造を分かりやすく解説されるなど、聖書はこれほどまで読めるのかと(否、いささか読み過ぎではないかと)思うほど圧倒されました。これまでの不正確な理解が露にされた時でもありました。

8日夜は、戦後70年に当たり、日本人キリスト者として戦争への責任を負うべく、アジア各地の神学校で奉仕される姿勢に、全員が肅然と聞き入りました。予定を30分も上回る2時間半、立ち続けて話された先生は、終了後に右足がつって動けなくなるほどでした。

事前に郵送していただいた先生の論文等から期待はしていましたが、これほど中身の濃いものとは予想しておらず、聖書釈義に関心を抱く参加者には刺激的かつ挑戦的な講義でした。旧・新約聖書の橋渡しとして七十人訳聖書の位置と役割は知っていても、釈義上どの程度まで使い得るかは、これまで学ぶ機会がありませんでした。先生が実例を多数挙げて説明され、訳し換え(翻訳)に伴う対応原語がなぜその語になるかという推定、特にルカが明らかに七十人訳を採用したと思われる表現について、ルカの神学をより深く探る可能性を示唆するものでした。日本語でこれほど深く学べること自体、有難い(希有な)ことです。

先生の講義がいかに衝撃的であったかは、私がおの後の説教作りでバランスを崩し、回復するのに多少時間を要するほどでした。もう一度、原語から学ぶ原点に帰らねばと教えられた次第です。情熱を注ぎ全力で講義をしてくださった村岡先生に感謝するとともに、かくも有意義な機会を提供してくださった宣教会の先生と職員のみなさまに感謝いたします。

教会音楽夏期講習会を終えて

赤坂 恵美 (講師)

昨年まで木～土で行っていたのを水～金(7月22日～24日)にかえて開催した今年の教会音楽夏期講習会でしたが、ほぼ例年通りの参加者数(30名程)で、初めて来られた方も卒業生も例年と同じように数名ずつおられました。皆さんが、教会の奉仕の現場から(自覚の有無にかかわらず)“遣わされて”、学ばれる3日間の貴重な時間です。受講生と私たち講師が共に主の御前に出て、みことばに耳を傾ける開会礼拝に始まり、3日間を通して練習し学んだ賛美のうたとみことばの説き明かしで綴られる閉会礼拝に至るまで、聖書神学舎の教師たちによる『教理』や『詩篇』の学び、合唱の課題を実際に歌いながらの賛美の本質についての学び、受講者それぞれの必要に応じた分科会での実技レッスン等々…と、礼拝賛美が根ざすべき「みことば」の学びを根幹に据えつつ、様々な角度から様々な方法で、「礼拝と賛美」について考え、学ぶことを願ったプログラムでした。時間的にも充実したプログラムに、受講生は熱心に、喜んで向き合っておられました。私自身も毎年、受講生と共に学ぶことの出来る特権を感謝し、庶務や担当講義の準備に追われつつもこの3日間を楽しみにしてきたのですが、今年は少し身辺が落ち着かず、実は集中できないまま臨んでしまったということに、講習会も終わりに近づいた頃になって気づかされたことを告白しなければなりません。様々な思い巡らしながら迎えた閉会礼拝で、コロサイ1章に基づく新作賛美歌を皆で歌っていたとき、みことばに深く想いを致すことへと導かれ、キリストの贖いの事実の前に改めて突きつけられた自分の罪と向き合い、悔い改めを迫られる経験をさせていただきました。

帰り際、参加者お一人お一人の感想に表れた熱心な姿勢にも大いに励まされながら、この方々がそれぞれの教会に帰り、賛美のこぼれを通して主の御業が宣べ伝えられ、御栄光があらわされますようにと祈りを新たにしました。

「オープンデイ」のお知らせ

11月7日（土）

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。事前の申込は不要です。見学などの機会として是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:35~12:15	12:15~	
1年	旧約各書I (伊藤暢人)	チャペル (鞭木由行)	組織神学II(神論) (鞭木由行)	簡単な昼食を提供します。 時間の許す方は 交わりにご参加 ください。 当日の申込にて。	
2年	旧約研究I(五書) (津村俊夫)		新約研究I(福音書) (三浦 譲)		
3年	宣教学II(異教・異端) (赤坂 泉)		教会学III(教会組織) (赤坂 泉)		組織神学VII(終末論) (横山昌英)
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		教会音楽講座 (飯島千雅子ほか)		

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

「賛美礼拝」のお知らせ

11月28日（土）14:30

今年も下記のように賛美礼拝をささげます。共に主をほめたたえ、礼拝する特別な機会です。どなたでもご参加いただけます。是非お誘い合わせでお出かけください。

テーマ：望みの神

聖書：マルコの福音書9章38~41節

説教：宗形 和平

曲目：

「主の祈り」H.シュッツ、
「救いはただ主の恵みの賜物」M.プレトリウス、
J.S.バッハ、H.ディストラー 他
「異邦人救うまことの光」、「主イエス・キリストは父より出で」、「慰め主なる主を歌をもてたたえよ」 他
オルゲル小曲集より「異邦人救うまことの光」BWV599、
「主イエス・キリストは父より出で」BWV601、
「救いはただ主の恵みの賜物」BWV63 他
「新作賛美歌」 他

演奏：重唱、合唱、会衆賛美、交互唱、オルガン

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

《近況と祈りの課題》

- 夏の諸行事・諸奉仕が、主にあって守られ、祝されました。夏期研修講座と教会音楽夏期講習会、キャラバン伝道については紙面で報告しています。研修生や教職員の教会での奉仕、教派や超教派でのキャンプ等の奉仕、東北をはじめ日本各地での個人的な奉仕等々、教え切れない働きの機会に、主が私たちを用いてくださいました。主に感謝し、御名をほめたたえます。
- 秋からの研修生、教職員たち一同の歩みのため、霊肉の支えのためにお祈りください。
- 同窓生の主にある働きも、主が顧み、祝して下さっていることを信じます。日本でも世界でも、日常的な交わりがあってもそうでなくても、同労の交わりに連なっている恵みを感謝します。諸教会の秋の伝道の働き、種蒔きも収穫も、主が豊かに祝福して下さいますように。
- 10月1日から新年度の要覧が配付され、募集が始まります。この国、この時代に、献身者がさらに起こされるように、そして、この学舎にも主の選びの器たちが主のご計画の通りに導かれてくるようにお祈りください。
- 10月22日から後期が始まります。講師に渡部和彦師（教会教育学）が加わってくださいます。
- 学舎の営みは、経済的な必要の面でも守られています。主のわざであり、主の確かな御手を「不思議」と表現するのは不適當ですが、人間の目には極めて不思議な方法の連続で、大いに祈らされることです。お祈りとお支えを感謝しています。

編集後記

横暴な、また無節操な言動の横行が加速してはいないか。政治や経済の世界であれ、路上やネット上であれ。犯罪の凶悪化も同様のよう思う。そのような時代をどう生きるのか。情報を操作・統制し、世論を誘導しようとする力を

どう見張り、どう声をあげるのか。大いに祈り、ささやかながらも発信し、行動させられた夏だった。

秋。目を高く上げて、主を待ち望み、主からの新しい力を得て歩みを続ける。すべては主の栄光のために。(A)